教育広報 ― 教育の土壌を肥やそう ―

かまいし

第60号

平成30年11月15日
釜石市教育委員会
釜石市鈴子町15-2
TEL 22-8832
FAX 22-3633

平成30年度 富山県朝日町中学生交流事業

平成21年度からスタートした当事業。今年は7月30日(月)から8月2日(木)までの3泊4日で、友好都市の富山県朝日町から10名の中学生が釜石市を訪問しました。

釜石で迎えてくれたのは、昨年度同事業により朝日町を訪問した釜石市内中学校3年生10名の生徒（釜石中・野嶋蓮恩さん、千葉菜々子さん、甲子中・川﨑大翔さん、大瀧結菜さん、釜石東中・川﨑泰輝さん、小澤向日葵さん、唐丹中・武藤圭毅さん、鈴木萌々夏さん、大平中・佐藤叶夢さん、萬紗耶さん）でした。昨年度お世話になったお礼の意味を込めて、精一杯のおもてなしをしようと積極的に参加してくれました。

対面式では、お互いに学校紹介・自己紹介を行いました。各学校の行事を紹介したり、ダンスや踊りを紹介したりする中で、それぞれの学校の良さを伝え合うことができました。

交流活動として、釜石大観音では、晴天の青空のもと、真っ白に輝く観音像が見渡す海の景色を一緒に眺めながら話したり、展望台に登ったり、共に行動する中で徐々に仲良くなっていく様子が伺えました。

鉄の歴史館では、金属鋳造体験でオリジナルのキーホルダーを作成しました。

世界遺産の橋野鉄鉱山を見学する頃にはすっかり打ち解け、存分に釜石の歴史・魅力を感じている様子が伺えました。

活動を通して交流も深まりあっという間の一日となりました。今後、両市町の友好・交流がさらに深まり、発展するものと確信できた、とても充実した機会となりました。

世界遺産の前で集合写真

かまいし絆会議 ～未来への第1歩～

昨年度スタートした「かまいし絆会議～未来への第1歩」は、8月に市内各小・中学校の代表児童生徒計28名が釜石中学校に集まり、今年度の第1回目が行われました。

昨年度の絆会議で話し合い、全小中学校で取り組むこととして決めた「巨大壁画（モザイクアート）制作」と「ビデオメッセージ製作（その中で小中学生で制作した楽曲を歌う）」の実現に向け、いよいよ活動が開始しました。

本会議を前に中学生は2回の専門部会を開きました。それぞれの専門部会に分かれて、今後、どのように活動を進めていくかを話し合いました。また、これら2つの活動実現のために、大きな協力をいただく「スマイルとうほくプロジェクト」の方々から今後の見通しや、取り組み方法等について、具体的な助言をいただきました。

また、ラグビーワールドカップ2019推進本部に行き、壁画を釜石鵜住居復興スタジアムに設置することについてお願いし、快く承諾していただきました。

本会議では、各専門部会のリーダーである中学生が、これから具体的にどのように制作していくかを説明しました。その後、それぞれの部門についてのワークショップを行いました。壁画については、モチーフに入れたい絵や言葉を実際に描きながらグループで話し合いを進めました。歌・ビデオについては、どのようにして歌詞や曲づくりをしていくのかを確認し、学校にもどって全校で行うことを共通理解しました。

今後、自分たちが考えたアイディアがどのようなものに形を変えていくのか楽しみです。

小・中学生が一緒になって話し合いました。

平成30年度　釜石市防災講演会　6月4日(月)

「地域と連携した防災教育が子供を変える地域を変える」

東京大学大学院情報学環 特任教授
群馬大学 名誉教授
片田敏孝先生

6月4日(月)、講師として東京大学大学院情報学環特任教授、群馬大学名誉教授の片田敏孝先生をお招きし、平成30年度釜石市防災講演会を釜石市民ホールTETTOにて開催しました。市内小中学校全教職員の他、市民の方々も含めて約220名が参加し、大雨・洪水被害やそれに伴う土砂災害対応について理解を深めました。

「東日本大震災の教訓を生かしているのか?」との問いかけから、語り継ぐことの難しさと大切さを再確認して始まった講演。前半は、頻発する集中豪雨とそれに伴う土砂災害、大型化する台風等、近年の日本列島は異常災害が「異常」とは言えない危機的な状況にあることを詳細なデータを基に説明し、自らが「津波は必ず来る」と訴えた東日本大震災前の状況と酷似していることを強く私たち聴衆に印象付けました。

また、後半以降は、土砂災害は局地的に起こる災害であることから、その対応は、個人が置かれている状況や条件によってとるべき行動が異なり、行政の避難勧告等だけに頼り切るのではなく、より主体的な判断が必要になること、それは、自主避難ルールを地域で作るなど、普段からの地域とのつながりがあってこそ可能であることを説かれました。

最後に、防災教育は災害対応のみならず、地域を愛し、地域と生きていく子ども達を育てていくことにつながることを事例等を交えながら確認し、当市の学校教育で取り組む「いのちの教育」の今後の方向性について、大きな示唆を与えていただく講演会となりました

講師の片田敏孝先生

【所感用紙から】

- 東日本大震災の教訓を釜石市は生かしているのか、という問いが心に響いた。
- 「予測できない災害時に求められる主体的な避難」は今後の釜石だけでなく、将来どこに住むことになろうと意識すべきことである。一人ではなく地域で考える「自主避難ルール」は即、児童と確認したい。
- 土砂災害や水害などはいつ起こるか分からないので地域ぐるみで取り組んでいく必要がある。その中で、地域を愛し、地域に誇りをもてる子どもたちを育てていきたい。
- いざという時に、主体的に避難できる人を育てるために、主体的・体験的な学習を進めていくことが大切だと感じました。

講演に聴き入る教職員

第2回「いのちの教育」研修会

「土砂災害対応に関わる地域、関係機関との連携」に向けて

9月14日(金)、各学校から「いのちの教育」担当教員が参加し、平成30年度第2回「いのちの教育」研修会を行いました。

釜石市の学校教育の目標である「強く生き抜く力」の育成を図るために、防災教育を核とした「いのちの教育」の充実に資することを目的として行っている本研修会。今回は5月31日(木)に行われた第1回の研修会、6月4日(月)の釜石市防災講演会を受け、「土砂災害対応に関わる地域、関係機関との連携」という柱を設けて事務局からの説明、釜石小学校、白山小学校の実践発表、グループ協議という内容で研修を深めました。

まず、釜石小学校の沖拓教諭、浅沼琢哉教諭が「デジタル防災マップ」の実践について発表。親子で避難場所や危険箇所を調べ、各自の地図に記入した個人防災安全マップをもとに、デジタル防災マップを子ども達が作成。大雨や台風、土砂災害の危険箇所、交通安全に留意する箇所等について発表する様子を紹介していただきました。続いて、白山小学校の冨澤広子教諭が地域、防災危機管理課と連携した防災マップ作りについての実践を発表。市の洪水・土砂災害緊急避難地図をもとに子どもたちが実際に通学路を歩き、見守り隊の方々にも説明してもらいながら危険箇所を確認、登校班ごとに作成したマップを保護者、地域の方の集まる学習参観日に発表。その後、親子で地域の方と一緒に防災危機管理課の講演を聴くという流れで取り組んでいることを紹介していただきました。

グループ協議後、今回の研修会をもとに各学校で土砂災害対応について、できることからまず一歩を踏み出すことを確認しました。第3回は2月12日(火)に行います。

【グループ協議から】
(今後の取組として考えられること)

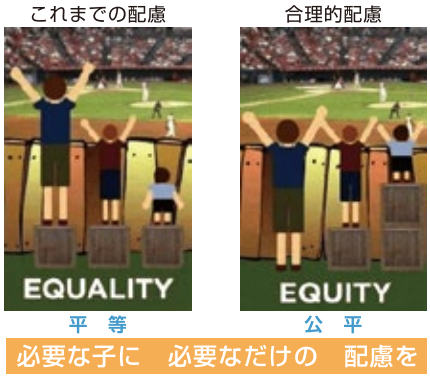
- 地域・小中合同訓練(避難場所も再検討)
- 地域の方に土砂災害の危険区域を教えていただきながら自分たちの学区を知る
- 参観日の活用(保護者への啓発が必要)
- マップの引き継ぎ(小学校⇒中学校)
- 学校版タイムラインの作成
- 地域の会議等での学校からの情報発信
- 防災危機管理課に学区の災害マップについて説明していただく(保護者にも)

共に学び、共に生き抜く社会へ

～インクルーシブ教育システムの理解啓発に向けて～

特別支援教育とは

特別支援教育とは「障がいのある児童生徒に対してその一人一人の教育的ニーズを把握し、当該児童生徒の持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うもの」と定義されています。平成19年4月から「特別支援教育」が学校教育法に位置付けられて以来、すべての学校において、障がいのある幼児児童生徒の支援のさらなる充実、障がいのある子どもが十分に教育を受けられるための「合理的配慮」及び「その基礎となる体制整備」が求められているところです。

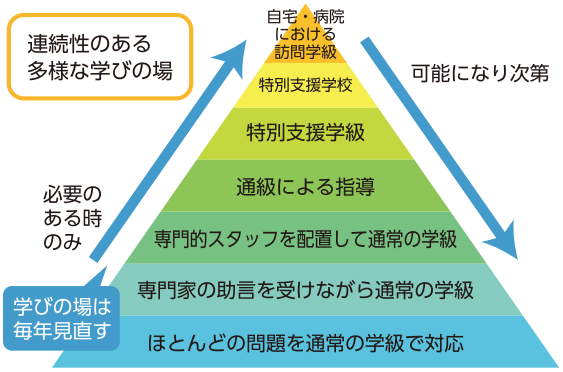


特別支援教育は特別なものではない

現在、特別支援教育は、特別支援学校や特別支援教室だけで行われる教育ではなく、通常の教室に在籍する「困っている子」に対しても、必要な支援を行う教育であり、全ての学校・教室で行われているものです。

インクルーシブな教育へ

インクルーシブとは…障がいの有無で人を区別せず、一人一人の違い（ありのままのその人）を認め合いながら、同じ場所（地域）で育ち支え合う社会の実現を目指す、という意味で使われています。インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが必要とされます。小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」が必要です。



理解啓発に向けて

今年度教育委員会では、このような特別支援教育の体制を整えたいと考え、国立特別支援教育総合研究所の指導を受け、研究を進めているところです。平成31年1月11日（金）には、釜石市民ホールTETTOを会場に、市内小・中学校全教職員、各関係機関、そして保護者・地域の方々を対象に、インクルーシブ教育システムの理解啓発に向けた講演会を、宇野宏之祐主任研究員、平沼源志研究員を講師に迎え開催する予定です。ぜひ、会場に足をお運びいただき、これからの特別支援教育について、共に理解を深める機会にしていただきたいと思います。

鈴木勝さんが教育委員に再任

平成25年10月から教育委員を務めている鈴木勝さんが、9月30日をもって任期満了となりましたが、釜石市議会9月定例会において、議会の同意を得て、10月1日付けで市長が、鈴木勝さんを引き続き教育委員に任命しました。

また、10月1日付けで教育長が佐藤猛夫委員を教育長職務代理者に指名しました。

◆教育委員会の構成

◇教育長　佐藤　功さん

◇委　員　鈴木　勝さん

佐藤　猛　夫さん（教育長職務代理者）

市川　淳子さん

太田　悦子さん

第1回釜石市総合教育会議が開催されました

本年度第1回目の総合教育会議が、8月21日（火）に開催されました。

会議では、学校教育の方向性の確認や、学校環境の整備について、市長と教育委員による活発な意見が交わされました。

学校給食センター整備事業

現在、平成32年4月の供用開始を目指して、「学校給食衛生管理基準」や「大量調理施設衛生管理マニュアル」に基づく、HACCPの概念を取り入れた、より安全安心な調理環境となる新しい学校給食センターの整備を進めています。

新センターでは、アレルギー対応調理室や炊飯設備を設置するほか、会議室では、見学通路の外にモニターの映像で調理場内を確認できるようになり、また、試食会の受け入れも可能となります。太陽光発電設備や非常用発電機、災害時の炊き出しに対応できる既存施設の厨房機器を活用した防災倉庫も設置します。

新給食センター完成予想図

平成30年度 屋形遺跡範囲内容確認調査
釜石中学校 発掘体験記

平成27年度に唐丹町大石で発見された屋形遺跡は現在国指定史跡を目指して、継続した範囲内容確認発掘調査を実施しています。本年度は7月17日（火）～8月21日（火）にかけて実施いたしました。

今回屋形遺跡の調査の一環として、小佐野公民館と協力して釜石中学校総合文化部の生徒を招待し、現場の説明会と本物の発掘作業を体験しました。

屋形遺跡は市内屈指の縄文遺跡で、子ども達が発掘作業を始めると、すぐに縄文土器のかけらが出土しました。見つかった遺物は今から約2000年前の弥生時代から、約5000年前の縄文時代までの土器や石器が出土しました。中でも蛇紋岩と呼ばれる緑色の石で作られた珍しい垂飾品が発見されました。発見者の女の子は考古学についてもっと知りたいと話してくれました。

こうした遺物が数千年の時を超えて出土することに驚き夢中で掘る子が多い中、土の色の違いと見つかりやすさの違いに気が付く子がいました。こうした土質の違いは実際の発掘調査でも基本となるもので、子ども達の観察眼に大人たちが逆に驚かされました。

釜石中学校総合文化部では、後日、自分たちで掘り出した遺物の拓本採取体験を行いました。縄文人の技術を墨で写し取り、学習発表する場で掲示しています。また、拓本は栞にして記念として、各自で持ち帰りました。

次年度以降も継続して調査を進めていきます。遺跡に直接触れる貴重な機会ですので、市内の各学校と連携して、多くの子ども達に体験していただきたいと考えています。

発掘体験の様子

平成30年度ぶんかざいなんでも体感事業
『釜石・甲子めぐり』

昨年度実施した平成29年度ぶんかざいなんでも体感事業『栗橋めぐり』に引き続き、今年度は釜石地区と甲子地区の文化財を知ってもらうため『釜石・甲子めぐり』を10月23日（火）に実施しました。

案内先として、楽山荘・アーチ橋梁・釜石製鐵所山神社・定内の一里塚・甲子町宿駅中央水路跡・旧釜石鉱山事務所などの文化財を巡り、最後に株式会社釜石鉱山の坑道見学で締めくくりました。

最初の見学先の楽山荘では、新日鐵住金株式会社の職員から施設の概要を伺い、昭和45年に宿泊した天皇皇后両陛下（当時皇太子ご夫妻）の寝室などを見学しました。

定内の一里塚では、地元の参加者から「知らなかった」「この場所は分からなかった」などの声がありました。

旧釜石鉱山事務所内の見学では、当時の仕事道具や、旧大橋診療所の展示品を見て「懐かしい機材や道具を見ることができて良かった」などの感想をいただきました。

参加者からは「参加して良かった」「知らない文化財がまだまだあるものだと思った」「貴重な経験をさせてもらった」「来年もまた別の場所であるのなら参加してみたい」などの意見をいただきました。

案内人の加藤良司さんからは「今回の経験を子ども達に伝えて欲しい。釜石には文化財や史跡がまだまだたくさんあるので、自分の目で見る機会を進んで作ってほしい」と話していました。

釜石製鐵所山神社

鉄づくり体験

甲子中学校では、鉄のまち釜石のものづくりについて、地域の歴史や先人の苦労を学び、体験を通して課題を解決する力や協力する力を高めることを目的として総合的な学習を実施しています。この一環として平成30年8月28日（火）に鉄づくり体験を実施しました。ミニ高炉を作り、鉄鉱石から鉄を作り出す体験で、2日をかけて体験学習を行いました。

不純物を取り除くノロ出しでは、子ども達から歓声が上がり、鉄づくりの大変さや先人たちの努力を感じてくれたようです。

ミニ高炉作成中